

文化財等に対応した訓練シナリオの例

【シナリオ例 1】（日中、初期消火が困難な場所から出火）

1 想定

午前 9 時 45 分頃、A 城大天守（木造地上 6 階建て、延べ 2,000 m²）の 4 階から出火し、観光客数名が逃げ遅れている。また、火勢は上階へ延焼拡大中である。敷地内の建造物等の配置状況は図 1 のとおり。



図 1 敷地内の建造物等の状況

2 使用する消防用設備等

- (1) 消火器
- (2) 屋内消火栓設備（2号：1人操作）
- (3) 自動火災報知設備（R型受信機とアナログ型感知器）
- (4) 放送設備
- (5) 火災通報装置（自火報連動）

3 訓練参加者

自衛消防隊 7 名

※自衛消防隊を大天守の各階に配置

4 重点事項

- (1) 日中の観光客が多い時間帯での初動対応
- (2) 木造建築物の高層階から出火し、上階に観光客が多数いる場合における早期の通報、消火、避難誘導體制の確立
- (3) 複数の消火設備による初期消火体制の確立
- (4) 消防隊進入経路の確保、出火場所へ誘導及び情報提供

5 訓練シナリオ

想定時間	想定	自衛消防隊 A、B 消火・避難班 (2 名)	自衛消防隊 C 消火・避難班 (1 名)	自衛消防隊 D 消火・避難班 (1 名)	自衛消防隊 E、F 消火・避難班 (2 名)	自衛消防隊 G 通報班 (1 名)
待機場所		1、2 階各 1 名	3 階	4 階	5、6 階各 1 名	防災センター
9:45	自動火災報知設備が鳴動					受信機を確認 (自火報連動に伴い、火災通報装置の自動起動による 119 番通報)
9:46	受信機は大天守の 4 階を火災表示	観光客に情報提供	4 階屋内消火栓設備の設置場所へ向かう	消火器を携行し、状況確認	観光客に情報提供	・各自衛消防隊に 4 階火災表示の旨を連絡 ・館内放送を実施
9:49	4 階電気設備から火花	在館者の避難誘導(3 階、4 階の避難誘導含む)	屋内消火栓設備の放水準備(ポンプ起動、ホース延長)	・無線で防災センターに報告 ・消火器で初期消火(実際に放射する。)	在館者の避難誘導	・各自衛消防隊に 4 階で火災発生を周知 ・消防機関に続報
9:52	・消火器での消火失敗 ・屋内消火栓設備で消火	在館者の避難誘導	屋内消火栓設備で消火(実際に水を出す。)	在館者の避難誘導		敷地内の自衛消防隊に消防隊の誘導を依頼
9:57	消防隊に引き継ぎ					消防隊に情報提供

【シナリオ例 2】（夜間、出火危険がある場所から出火）

1 想定

午後 10 時に B 堂（木造地上 2 階建て、延べ面積 1,000 m²）の賽銭箱から出火し、自動火災報知設備が鳴動。敷地内の建造物等の配置状況は図 2 のとおり。

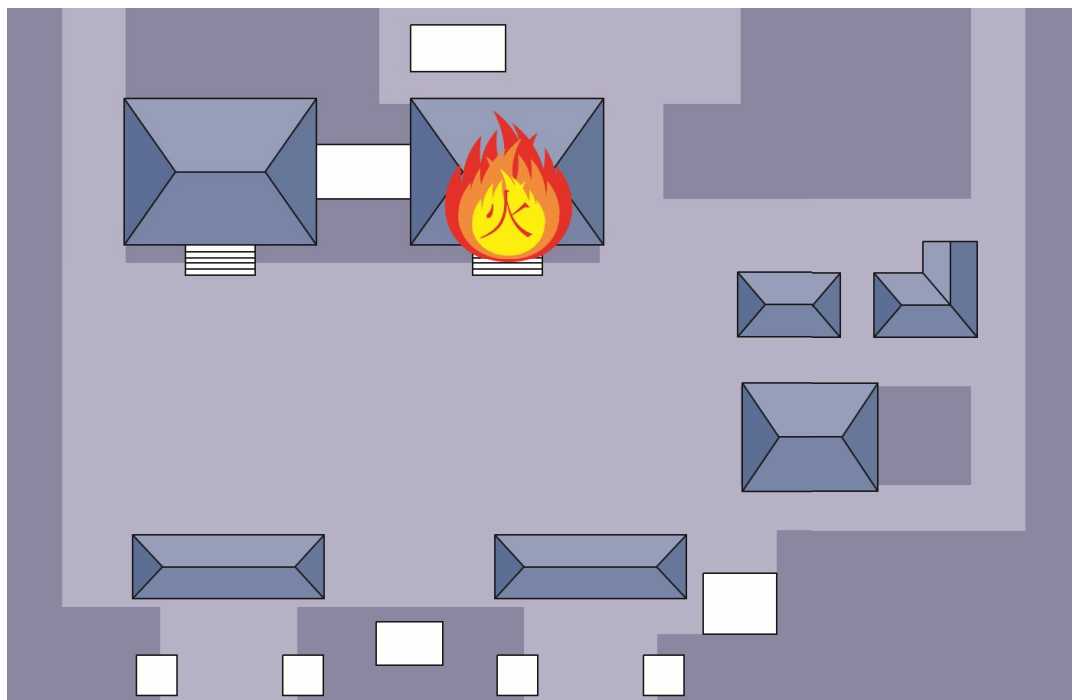


図 2 敷地内の建造物等の状況

2 使用する消防用設備等及び防火設備

- (1) 消火器
- (2) 自動火災報知設備
- (3) 屋内消火栓設備（1号：2人操作）
- (4) 放水銃（防災センターでポンプ起動ボタンを操作し、自動放水される。）
- (5) ドレンチャー設備（防災センターでポンプ起動ボタンを操作し、自動放水される。）

3 訓練参加者

自衛消防隊 4名

4 重点事項

- (1) 夜間の限られた人員での初動対応
- (2) 木造建築物の延焼危険が高い場所からの出火における早期の通報（一段通報※¹、二段通報※²）及び複数の消火設備による初期消火体制の確立
- (3) 近隣住民への速やかな協力要請及び文化財の搬出
- (4) 放水銃及びドレンチャー設備による延焼防止
- (5) 消防隊進入経路の確保、出火場所へ誘導及び情報提供

※1 自動火災報知設備により火災を感知したときの通報をいう。

（例）「こちらは〇〇です。自動火災報知設備が作動しました。今、現場を確認しています。」

※2 現場を確認した後に行う通報をいう。

（例1）「こちらは〇〇です。・・・△△で、××が燃えています。」

（例2）「こちらは〇〇です。先ほど電話しましたが、火事ではありませんでした。」

5 訓練シナリオ

想定時間	想定	自衛消防隊 A 消火、文化財搬出班 (1名)	自衛消防隊 B 消火班 (1名)	自衛消防隊 C 通報、消火班 (1名)	自衛消防隊 D 消火班 (1名)
	待機場所	防災センター	防災センター	防災センター	防災センター
22:00	自動火災報知設備が鳴動			受信機を確認	
22:01	受信機は B 堂の 1 階を火災表示	消火器を携行し、B 堂へ向かう	屋内消火栓設備の設置場所へ向かう	119 番通報（自動火災報知設備が発報し確認中、一段通報）	屋内消火栓設備の設置場所へ向かう
22:05	賽銭箱から出火し、延焼危険あり	・無線で防災センターに報告 ・消火器で初期消火（実際に放射する）。	屋内消火栓設備の放水準備（ポンプ起動、ホース延長）	近隣の住民に協力要請の連絡	屋内消火栓設備の放水準備（ポンプ起動、ホース延長）
22:07	・消火器での初期消火失敗 ・屋内消火栓設備で消火		屋内消火栓設備で消火（実際に水を出す。）	消防機関に続報（二段通報）	屋内消火栓設備で消火（実際に水を出す。）
22:10	文化財の搬出	文化財の搬出（駆け付けた近隣住民と協力）		消防隊進入門扉を開放し、消防隊を誘導	
22:15	放水銃及びドレンチャー設備により延焼防止			放水銃及びドレンチャー設備で延焼防止（防災センターの起動ボタンを押し実際に水を出す。）	
22:20	消防隊に引き継ぎ			消防隊に情報提供	

【シナリオ例 3】（催し物の開催時、出火危険がある場所から出火）

1 想定

午前 10 時頃、博物館（耐火造地下 2 階地上 6 階建て、延べ 20,000 m²）の正面入口付近で行われている催し物で使用しているキッチンカーから出火し、延焼拡大したもの。敷地内の建造物等の配置状況は図 3 のとおり。

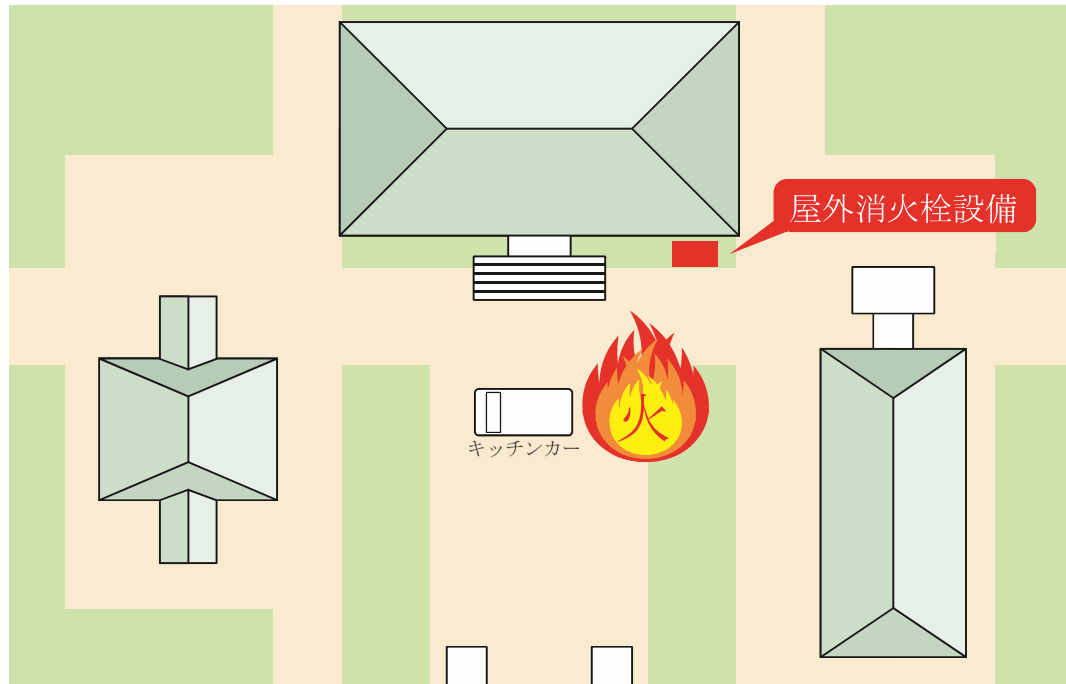


図 3 敷地内の建造物等の状況

2 使用する消防用設備等及び防火設備

- (1) 消火器
- (2) 屋外消火栓設備
- (3) 放送設備
- (4) 放水銃
- (5) ドレンチャー設備

3 訓練参加者

自衛消防隊 9 名、催し物の関係者 2 名

4 重点事項

- (1) 日中の催し物の開催時における初動対応
- (2) 催し物の関係者及び自衛消防隊の情報連絡体制の確立
- (3) 複数の消火設備による初期消火体制の確立
- (4) 延焼の恐れのある建物からの観光客の避難誘導及び文化財の搬出
- (5) 消防隊進入経路の確保、出火場所へ誘導及び情報提供

5 訓練シナリオ

想定 時間	想定	自衛消防隊 A～C 消火班 (3名)	自衛消防隊 D～F 避難誘導班 (3名)	自衛消防隊 G 通報班 (1名)	イベント関係 者 (2名)	自衛消防隊 H 文化財搬送班 (2名)
待機場所		博物館 1階～3階	博物館 1階～3階	博物館 防災センター	屋外 キッチンカー付近	博物館 防災センター
10:00	火災発生				火災発見	
10:01	・防災センターへ連絡 ・119番通報			119番通報	火災発生を防災センターへ連絡	
10:03	消火準備	屋外消火栓設備の設置場所へ向かう	在館者の避難誘導	・自衛消防隊に火災発生を周知 ・館内放送を実施	消火器を携行し、消火準備	文化財の搬出準備
10:06	キッチンカーの火気設備から出火し、延焼危険あり	屋外消火栓設備の放水準備（ポンプ起動、ホース延長）		近隣の住民に協力要請の連絡	消火器で初期消火（実際に放射する。）	
10:09	・消火器での消火失敗 ・屋外消火栓設備で消火 ・文化財の搬出	屋外消火栓設備で消火（実際に水を出す。）		敷地内の自衛消防隊に消防隊の誘導を依頼	周囲の観光客の整理	文化財の搬出（駆け付けた近隣住民と協力）
10:13	放水銃及びドレンチャージャー設備により延焼防止	放水銃及びドレンチャージャー設備で延焼防止（実際に水を出す。）				
10:16	消防隊に引き継ぎ					消防隊に情報提供